

伊達な  
国際交流員の  
つれづれコラム  
vol.86



「5月の花」  
May Flowers

英訳版を  
見る▶



西洋には「April showers bring may flowers」ということわざがあります。直訳すると、「4月のわか雨が5月のお花を連れてくる」。アメリカでは4月、にわか雨が最も多い月です。その大事な水と暖かくて光の多い天候のおかげで、5月に美しく立派なお花が咲きます。しかし、季節の天候の表現だけではなく、「悪いことがあっても、先にはいいことがある」という意味合いが含まれています。励ますと

きによく使う言葉です。悪いことが起こったとき、悲しいという気持ちも大切ですが、辛い時に進む力になるからこそ、希望を感じるのもとても大事だと思えます。前向きで、立ち直る力がとても強い伊達市と福島にふさわしい言葉だと思います。新型コロナウイルスももちろんのこと、東日本大震災などで大変な苦労をしてきましたが、今も、これからも皆さんの努力でたくさんのお花が咲く未来しか、私には見えません。(ララ)

地域の魅力  
ふる里再発見

たねや  
伏黒村の蚕種屋さん

令和6年度ミニ展示  
古文書からわかる村の暮らし展

5月19日⑩まで  
伊達市保原歴史文化資料館

伊達市教育委員会では、所蔵している歴史資料の目録作成を進めており、令和6年3月には第2集目となる「佐藤與惣左衛門家文書」の目録を刊行しました。同家文書は伏黒村（現・伊達市伏黒）の旧家に伝来した文書群です。内訳は、江戸後半の文書が1210点、明治以降の文書が149点です。江戸時代のものには、質地証文・金子借用証文・小作証文・奉公人証文などです。また、同家の家業である養蚕業・蚕種製造業に関する文書も多く、とりわけ天明4年〜文政5年の農業日誌、天明3年〜弘化3年の養蚕日誌、安永6年〜寛政3年の諸品相場記録は貴重な歴史資料です。

細に記録されています。この養蚕日誌を解説することにより、当時の蚕種製造・販売の実状を知ることができます。

但馬国養父郡蔵垣村（現・兵庫県養父市）の上垣守国は、享和3年（1803）に養蚕技術書の『養蚕秘録』を著しています。守国は明和7年（1770）に「藤屋」を訪ね、養蚕技術を習得し、その技術を但馬・丹波に普及させたと伝えられています。

明治以降の文書としては大正2年（1913）「新潟県蚕種販売帳」が興味深く、新潟県内各地での蚕種販売先が記録されています。



▶ 弘化3年 蚕養記

にじいろのだて(男女共同参画に関するさまざまな用語を紹介)

『見えない家事・名もなき家事』… ちょっとした家事のこと。料理、洗濯など目に見えるものだけが家事ではありません。普段の分担をチェックリストで確認してみましょう！

チェック  
リスト

